

令和元年度
佐渡市教育委員会

佐渡学センタ一年報

第 1 1 号

佐渡学センタ一年報

この年報の著作権は佐渡市教育委員会に帰属します。ただし、画像などは、所有者や執筆者に著作権があるものが含まれています。著作権法上の「私的利用」や「引用」の範囲を超えて使用する場合には、佐渡学センターまでお問い合わせください。ただし、掲載資料の使用に際して発生した障害には、佐渡市教育委員会は一切の責任を負いません。

刊行にあたって

佐渡学センター長 濱崎 賢一

令和元年度は、元号が「平成」から「令和」へ改元された歴史的な年となりました。

万葉集から典拠した「令和」について安倍総理は、「人々が美しい心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められていると説明があったように、本市においても、すがすがしく和らいた心の中で素晴らしい時代が築かれ、歴史と文化が薫り自然と人が共生できる美しい島づくりを目指していきたいと考えています。

さて、天皇陛下のご即位に伴い、令和初の開催として、国内最大の文化の祭典「天皇陛下御即位記念 第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回全国障害者芸術・文化祭」が新潟県で初めて開催され「文化の丁字路～西と東が出会う新潟～」のテーマのもと、9月15日から11月30日までの77日間の会期中、県内全域において179事業を計画し、300万人近くの多くの方から楽しんでいただきました。

本市においても、県内の7エリアの一つとして「佐渡エリア」として「佐渡金銀山と公家・武家・町人文化」をテーマとし、「佐渡・能楽の祭典」「ようま芸能絵巻」「第4回佐渡民謡の祝祭～国民文化祭にいがたSpecial～」「佐渡鈍翁茶会」など、昨年度発足した一般財団法人佐渡文化財団と連携しながら、佐渡が誇る文化を展開し、佐渡の文化の魅力を全国に発信を行った記念の年となりました。

佐渡博物館においては、佐渡で制作活動を行い国内外でも高い評価を受ける、本間一秋・秀昭両氏の作品を一堂に集めた特別展「本間一秋・秀昭竹芸二人展」を7月から10月にかけて開催し、佐渡の竹芸作家の繊細で独創的なそのしなやかな流線美の魅力に触れていただきました。

また、企画展として寄贈された博物館資料の展示を行う「佐渡博物館新規収蔵資料展」を1月から3月に開催し、近年収蔵された資料を中心に民具、美術・工芸品、生物標本などを中心に行いましたが、2月から新型コロナウイルス感染症の影響により、博物館・資料館等を全館閉館するなどの影響を受け、「新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取組」や「新しい生活様式」といった施設での「ガイドライン」を作成するなど見直しを行うこととなりました。

今後の博物館運営において引き続き徹底した「新型コロナウイルス感染防止」の取り組み強化を図っていきます。

令和元年度の年報を発刊するにあたり、佐渡市内の博物館関係施設の運営及び管理などにご尽力いただきました関係各位に深く感謝申し上げますとともに、今後ともなお一層のご指導とご協力をお願い申し上げます。

目 次

刊行にあたって

I.	佐渡学センター設置からこれまでの経緯	1
II.	管理運営の状況	5
III.	佐渡学センター事業報告	
1.	展示事業	2 1
2.	収集保管事業	2 5
3.	調査研究事業	2 7
4.	普及教育事業	2 7
5.	支援・助成事業	2 8
6.	連携事業	2 8
7.	イベント	2 9
8.	刊行物	3 1
IV.	関係団体	3 2

I. 佐渡学センター設置からこれまでの経緯

沿革

【平成 16 年度】

佐渡伝統文化研究所を設置することを佐渡市長が表明する。

設立趣旨を、「佐渡は、古くから島外の文化を受け入れながら島独自の文化を形成し、貴重な民俗芸能や伝統的な行事なども継承されている。また、

多様な地形や植生・地質など、自然環境にも恵まれている。このような文化遺産や自然環境は島内外の人々にとって大きな魅力となっているが、十分な調査や保存が行われているとは言えない状況にあった。

このような貴重な文化遺産の価値を島民に十分理解してもらい、その調査と保存・活用を図るべく、佐渡伝統文化研究所準備室を設置してその任に当たって来た。本年度から本格的に活動を目指して正式な『佐渡伝統文化研究所』を設立した。今後は、貴重な資料の散逸を防ぎ、データを集積して広く情報を発信しながら島民の皆さんは勿論、佐渡を訪れる多くの方々に利用して頂けるように努めたいと考えている。」として掲げ、活動を開始した。

【平成 17 年度】

佐渡伝統文化研究所準備室を佐渡市教育委員会生涯学習課内に設置した。

佐渡市長の平成 17 年度『施政方針』で、「研究所の基本理念」として、「佐渡の歴史と文化を再認識し、有形無形の歴史・文化資産を保護継承し、子々孫々まで残していくことは現代に生きる私たちの責務であると考えます。そのため、島内の研究者や伝統技術・技能の伝承者を集め、貴重な資料の散逸を防ぎ、専門の研究機関を設置することで、各地に残る貴重な資産・資料把握、保存整理研究が行える『佐渡伝統文化研究所』(仮称)の設立を行い伝統文化の継承に努めます。」と表明する。

【平成 18 年度】

佐渡伝統文化研究所準備室を佐渡市教育委員会文化振興課内に設置した。

【平成 20 年度】

重点施策として、「佐渡伝統文化研究所の体制づくりの推進及び佐渡の歴史・文化・自然に関する調査・研究とデータベース化、デジタルアーカイブ化の構築」とした。

【平成 19 年度】

佐渡伝統文化研究所を佐渡市教育委員会世界遺産・文化振興課内に設置した。設置場所は、梅津の佐渡市中央公民館から両津湊の佐渡市役所両津支所 3 階に移動する。

【平成 21 年度】

研究所の機能を拡充強化することによって、地域学の拠点化を図るために、本年度から「佐渡伝統文化研究所」の名称を「佐渡学

センター」に改称し、組織体制として新たに文化・学芸係を置き、佐渡島内の博物館・資料館管理運営及び学芸業務も統合した。また事務所も両津郷土博物館内に設置した。

＜重点施策＞

- 伝統芸能を始め、歴史・文化遺産の保存、・継承、活用は、重要な課題であり、平成 21 年度は市民と協力して、基本方針となる文化振興ビジョン策定に取り組む。
- 伝統と魅力ある地域文化の保存・継承を目的として、佐渡の歴史・文化・自然等に関する研究や情報発信、資料のデータベース化を行う。
- 地形や地質など自然遺産が豊富な島である「佐渡」を、国内はもとより広く世界に紹介できるよう、大学等の関係機関との連携を図りながら、ジオパークとして世界認定を受けるための準備を進める。

【平成 22 年度】

＜重点施策＞

- 佐渡の歴史・文化・自然等に関する調査・研究及び情報収集を行うとともに、その成果をデジタルアーカイブ化し、ホームページや報告書等の刊行及びシンポジウム等の開催による情報発信を、博物館・資料館と協働しながら行う。
- 伝統芸能活動支援として、能楽体験学習、後継者育成事業、特別活動支援等の補助事業を行う。
- ジオパーク認定を目指した取り組みを進める。
- 新潟大学人文学部等との協働事業を推進する。

【平成 23 年度】

＜重点施策＞

- 佐渡の歴史・文化・自然等に関する調査・研究及び情報収集を行うとともに、その成果をデジタルアーカイブ化し、ホームページや報告書等の刊行及びシンポジウム等の開催による情報発信を、博物館・資料館と協働しながら行う。
- 伝統芸能活動支援として、能楽体験学習、後継者育成事業、特別活動支援等の補助事業を行う。
- 新潟大学人文学部等との協働事業を推進する。

【平成 24 年度】

＜重点施策＞

- 佐渡の歴史・文化・自然等に関する調査・研究及び情報収集を行うとともに、その成果をデジタルアーカイブ化し、ホームページや報告書等の刊行及びシンポジウム等の開催による情報発信を、博物館・資料館と協働しながら行う。
- 伝統芸能活動支援として、能楽体験学習、後継者育成事業、特別活動支援等の補助事業を行う。
- 新潟大学人文学部等との協働事業を推進する。

【平成 25 年度】

＜重点施策＞

- 佐渡の歴史・文化・自然等に関する調査・研究及び情報収集を行うとともに、その成果をデジタルアーカイブ化し、ホームページや報告書等の刊行及びシンポジウム等の開催による情報発信を、博物館・資

料館と協働しながら行う。

○行政改革における施設の統廃合が急務であり、博物館・資料館の管理体制の見直しを図る。

○伝統芸能活動支援として、能楽体験学習、後継者育成事業、特別活動支援等の補助事業を行う。

○新潟大学人文学部との協働事業を推進する。

【平成 26 年度】

＜重点施策＞

○施設（博物館・資料館）における収蔵品の保存・活用や指定文化財等の保管管理の徹底と収蔵資料のデータベース化を推進する。

○行政改革における施設の統廃合を推し進め、博物館・資料館の今後の管理体制の見直し、効率的に運営を図る。

○佐渡博物館を佐渡市の総合的な博物館と位置づけ、三資産の普及啓発活動と連携しながら、学校教育での活用、市民にとって親しみやすい博物館づくりに努める。

【平成 27 年度】

＜重点施策＞

○各施設（博物館・資料館）における資料の受入れ及び保存管理を適切に行うとともに、資料の統一台帳のデータベース化を推進する。

○佐渡博物館を中心としたそれぞれの博物館・資料館の今後のあり方と資料の活用方法について再検討する。

○佐渡博物館を佐渡市の総合的な博物館と位置づけ、三資産の普及啓発活動と連携

しながら、学校教育での活用と市民にとって親しみやすい博物館づくりを目指した佐渡博物館活用計画を策定する。

【平成 28 年度】

＜重点施策＞

○佐渡博物館を中心としたそれぞれの博物館・資料館の今後のあり方と資料の活用方法について再検討する。

○各施設の資料の受入れ及び保存管理を適切に行うとともに、資料の統一台帳のデータベース化を推進する。

○佐渡の歴史文化資源の保存の観点から、伝統芸能の活性化につながる事業を実施し、その魅力の再発見と団体間の連携につなげる。

○佐渡博物館中庭に移築された旧浅島家の修繕工事を実施するとともに、改修後の活用方法を佐渡市博物館協議会の部会の中で検討し、郷土愛の醸成につなげる。

【平成 29 年度】

＜重点施策＞

○佐渡博物館中庭に移築された旧浅島家の修繕工事を実施するとともに、改修後の活用方法を佐渡市博物館協議会の部会の中で検討し、郷土愛の醸成につなげる。

○佐渡ゆかりの人間国宝四人展を開催し、卓越した工芸技術と優れた作品を多くの来館者に鑑賞してもらい、地元の偉人教育へつなげる。

【平成 30 年度】

<重点施策>

- 市の文化施設を活用し、佐渡の貴重な文化を島内外の人々に広く発信するとともに、文化の保存・活用事業をとおして文化財の価値を理解し郷土愛の醸成につなげるため、佐渡奉行所で「佐渡民謡の祝祭」と「佐渡鈍翁茶会」を開催し、新穂歴史民俗資料館では「のろま人形上演会」開催の支援を行う。
- 「佐渡文化財団」を設立し、佐渡の多様な伝統文化の保存・継承・活用を推進するとともに、芸術・文化の高揚を図り市民生活の向上と文化の発展に寄与することで、文化振興による観光振興、地域振興、交流人口の増加を図る。

II. 管理運営の状況

【令和元年度 佐渡学センター運営方針】

- 佐渡の伝統文化等の振興を目的に設立した佐渡文化財団の運営を支援する。
- 新潟県で初開催される国内最大の文化の祭典「国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭」において、佐渡固有の伝統芸能や文化を組み合わせた事業を進め、全国からの誘客で地域の活性化と佐渡の文化活動の向上を図る。
- 各施設の資料の受入れ及び保存管理を適切に行うとともに、資料の統一台帳のデータベース化を推進する。
- 佐渡の歴史文化資源の保存の観点から、伝統芸能の活性化につながる事業を実施し、その魅力の再発見と団体間の連携につなげる。

【博物館・資料館運営方針】

<重点施策>

- 既存の博物館機能の役割を明確化し、佐渡の歴史歴史、民俗、芸術等がよりわかりやすく発信できる佐渡博物館基本方針を策定する。
- また、旧後山小学校体育館を展示ができる収蔵施設として整備を進める。

<運営方針>

- 伝統文化等保存支援事業（補助事業）佐渡島内に伝承されている伝統芸能等の後継者・保持団体の活動に対し補助事業を実施、伝統文化の保存・伝承・活用を図る。
- 佐渡の歴史・文化・自然等に関するレフアレンス業務の推進を図る。
- 博物館・資料館管理の徹底を図る。

○博物館の企画展示の計画的な開催を目指す。

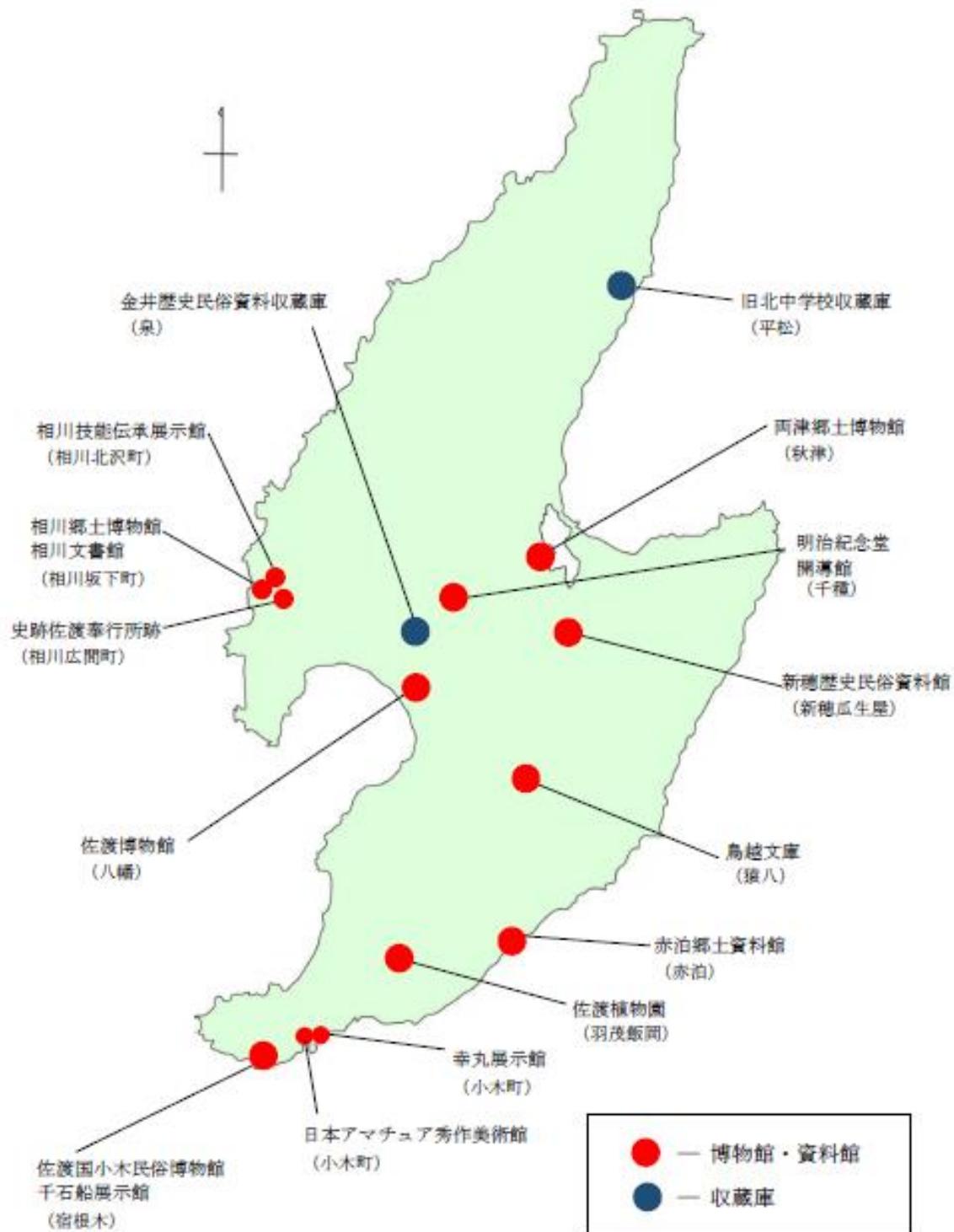
○博物館への多様なニーズに対応し、学校教育や大学・世界遺産・ジオパーク・GIAHS の政策と連携を図りながら資料展示の充実を図る。

【組織】

センター長・館長	濱崎 賢一
係長	村上 賢如
主任	石渕 裕作
主任	中川 優子
主事	五十嵐 麻湖（学芸員）
主事	井野端 圭介（学芸員）
雇員	高藤 一郎平（指導員）
雇員	本間 裕徳（佐渡博物館）
雇員	相羽 理恵（佐渡博物館）
雇員	伊藤 文恵（佐渡博物館）
雇員	中原 岳史（佐渡博物館）
雇員	宇田 美智子（相川郷土博物館）
雇員	小林 尚子（相川郷土博物館）
雇員	和泉 めぐみ（佐渡国小木民俗博物館）
雇員	坂口 美矢子（佐渡国小木民俗博物館）
雇員	山本 仁美（史跡佐渡奉行所跡）
雇員	谷口 幹雄（史跡佐渡奉行所跡）
雇員	和田 健（史跡佐渡奉行所跡）
雇員	浅井 真由美（史跡佐渡奉行所跡）
雇員	岩見 絵美（史跡佐渡奉行所跡）
雇員	山本 加奈子（相川技能伝承展示館）
雇員	佐々木 さゆり（相川技能伝承展示館）
雇員	山本 悅子（相川技能伝承展示館）
雇員	小杉 栄枝（相川技能伝承展示館）
雇員	寺尾 フジ子（相川技能伝承展示館）
雇員	金子 弘子（佐渡植物園）
雇員	本間 トヨ子（佐渡植物園）

佐渡市立博物館・資料館・収蔵庫など

令和2年3月31日現在



施設の状況等

【佐渡博物館】

開館年度 昭和 32 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市八幡 2041 番地

電 話 52-2447(FAX 兼用)

敷地面積 6,647.9 m²

建築総面積 1,632.05 m²

構造・階数 鉄筋コンクリート造 2 階建

展示室 856.16 m²

収蔵庫 107.79 m²

図書室 25.69 m²

会議室 33.77 m²

事務室 67.96 m²

その他 540.68 m²

駐車場 大型バス 3 台・普通車 20 台

<総事業費>不明

入館料 大人 500 円／子ども 200 円

休館日 12/29～1/3

備 考 昭和 32 年 9 月 1 日、佐渡の郷土資料を収蔵・展示する総合博物館として財団法人が開館。島内の学術団体、研究者の協力・支援のもと、調査研究・収集保管・展示公開等の事業を展開してきた。

平成 5 年に増改築を行い、2 階土田麦僕素描展示室と 1 階企画展示室を新設した。平成 25 年 11 月 30 日、運営主体の財団法人

が解散し、一時休館した。

平成 26 年 4 月 1 日、佐渡市立佐渡博物館として、「世界農業遺産 (GIAHS)」・世界遺産暫定リストに登録された「佐渡金銀山」・日本ジオパークに認定された「佐渡ジオパーク」の三つの遺産を発信すると共に、佐渡の自然・歴史・文化の調査研究・公開・発信を進め、佐渡学を学べる総合博物館として、再出発した。(土地は八幡館、建物は新潟交通株式会社の所有。財団法人が所有していた資料は佐渡市の所有となった。)

所蔵資料は約 7,000 件で、そのうち土田麦僕素描等資料は約 500 点。

【両津郷土博物館】

事業名 社会教育施設等整備費補助金

建設年度 昭和 56 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市秋津 1596 番地

電 話 52-2447(佐渡博物館)

敷地面積 49,590 m²

建築面積 1,373.59 m²

構造・階数 鉄筋コンクリート造 2 階建

地下 1 階

駐車場 約 50 台

<総事業費>515,912 千円

入館料 大人 300 円／子ども 100 円

休館日 12/29～1/3

(通常は事前申込により開館)

備 考 昭和 53 年、「加茂湖総合開発計画」の制定により、湖に半島となって突き出た樹崎一帯が「レクリエーション保存地区」として位置づけられた。その中で、市民の憩いの場、また生涯学習の一拠点として、昭和 57 年に開館した博物館。メインテーマは「島のくらしと文化」。

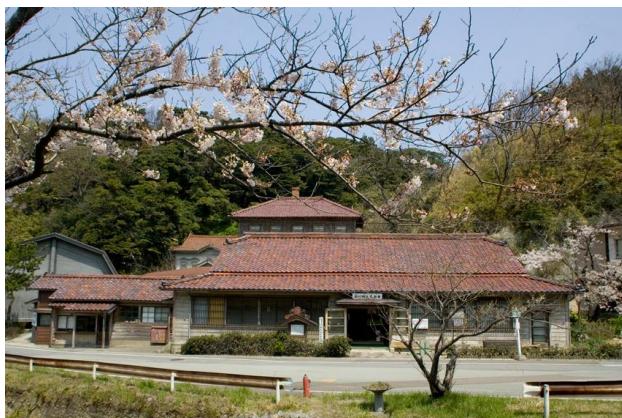
平成 26 年 4 月 1 日より休館しており、事前申込みにより開館している。

収蔵資料は、漁撈用具などの民俗資料を中心に 30,000 点以上。そのうち、国指定重要有形民俗文化財「北佐渡（海府・両津湾・加茂湖）の漁撈用具」を有する。

【相川郷土博物館】

事業名 相川小学校 80 周年記念事業

開館年度 昭和 31 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市相川坂下町 20 番地

電 話 74-4312

敷地面積 (総面積) 3,150 m²

建築面積 (総面積) 1,055.16 m²

構造・階数 木造平屋建 (一部 2 階建)

御料局佐渡支庁跡 172.24 m²

展示室 (1 階) 244.89 m²

特別展示室・準備室 84.60 m²

事務室・その他 117.19 m²

有田八郎記念館 116.76 m²

収蔵庫 198.00 m²

名誉町民資料館 55.48 m²

駐車場 相川技能伝承展示館と共に
約 20 台

<総事業費>不明

入館料 大人 300 円／子供 100 円

休館日 12 月から 2 月までの土日祝日
12/29～1/3

備 考 明治 22 年建築。御料局佐渡支庁跡に三菱佐渡鉱山の所長室及び本部事務室として建築され、鉱山の大幅縮小に伴い、鉱山資料と共に三菱より相川町へ譲渡され、昭和 31 年 7 月に開館した博物館。主に鉱山資料を中心に約 800 点を展示。

収蔵資料は、鉱山以外の資料として、「佐渡海府の紡織用具と製品」(国指定重要有形民俗文化財) 等、約 37,000 点。

【相川文書館】

建設年度 昭和 51 年度 (移築)



<施設概要>

所在地 佐渡市相川坂下町 20 番地

(相川郷土博物館敷地内)
 電 話 74-4312 (相川郷土博物館)
 建築面積 66 m²
 構造・階数 木造平屋建
 <総事業費>移築費 4,000 千円
 備 考 昭和45年から始まった町史編纂事業は、博物館では非常に手狭なため、昭和48年に旧第四銀行相川支店（大正2年建築）を改築する際に旧相川町へ建物を譲渡してもらい、昭和50年に完全移築し、町史編纂の作業とその資料の公開を目的として開館。平成23年3月、条例廃止と同時に機関を廃止。

資料展示室 109.31 m²
 窯小屋・登り窯 49.68 m²
 工房 102.69 m²
 ホール 137.75 m²
 事務室・その他 109.86 m²
 駐車場 相川郷土博物館と共に 約20台
 <総事業費>81,532 千円
 入館料 無料
 体験料 陶芸 1,720 円／裂織り 1,800 円
 休館日 12/1～2/29
 備 考 昭和61年に開館。陶芸実習と裂織り実習を行える体験施設として、修学旅行の体験学習の受入れを行っている。
 陶芸は相川無明異焼協同組合に委託し、裂織り実習は裂織り講座の卒業生を臨時雇用としている。

【相川技能伝承展示館】

事業名 地域バイタリティ育成事業全体計画

建設年度 昭和60～61年度



<施設概要>

所在地 佐渡市相川北沢町2番地

電 話 74-4313

敷地面積 2,271 m²

建築面積 712.17 m²

構造・階数 鉄筋コンクリート造平屋建
 (一部2階建)

陶芸実習室 109.31 m²

裂織実習室 93.57 m²

【史跡佐渡奉行所跡】

事業名 佐渡金山遺跡佐渡奉行所保存整備事業

建設年度 平成7～18年度



<施設概要>

所在地 佐渡市相川広間町1番地1

電 話 74-2201

敷地面積 18,542 m²

建築面積 1,541.6 m²

構造・階数 木造平屋建

御物見 34.7 m²
御役所 990.0 m²
御門番所 32.0 m²
御普請方役所 140.4 m²
勝場 344.5 m²
駐車場 大型バス 3 台、普通車 約 20 台
<総事業費>2,387,984 千円
入館料 大人 500 円／子ども 200 円
休館日 12/29～1/3
備 考 平成 6 年に佐渡金山遺跡（佐渡奉行所跡）が国の史跡として指定されたことを受け、平成 13 年に「御役所」建物を江戸期の技術で復元公開し、平成 16 年には金銀山のガイダンス施設となる「勝場（せりば）」の公開を開始。
平成 28 年度には、史跡佐渡金銀山遺跡佐渡奉行所跡整備基本計画書を策定し、経年劣化箇所の補修と今後の活用の方向性を計画した。

【佐渡国小木民俗博物館（本館）】

開館年度 昭和 47 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市宿根木 270 番地 2
電 話 86-2604
敷地面積（総面積） 11,192 m²
(本 館) 9,868.96 m²
延床面積 2,930 m²
構造・階数 木造平屋建

駐車場 10 台
<総事業費>190 千円（当時）
入館料 大人 500 円／子ども 200 円
休館日 12 月から 2 月までの毎週月曜日
備 考 大正 10 年に建てられた旧宿根木小学校の木造校舎をそのまま利用して、昭和 47 年 6 月に開館した博物館。館内には主に民俗資料を展示。

収蔵資料は、約 30,000 点で、そのうち「南佐渡の漁撈用具 1,293 点」「船大工道具 1,034 点」は国の重要有形民俗文化財に指定されている。

【佐渡国小木民俗博物館（新館）】

事業名 農村地域農業構造改善事業
(自然活用型)

建設年度 昭和 56～59 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市宿根木 270 番地 2
電 話 86-2604
建築面積 627.52 m²
構造・階数 鉄筋コンクリート造平屋建
駐車場 旧館と共に 10 台
<総事業費>87,194 千円
備考 昭和 59 年 8 月に開館。農・漁業道具、小木半島地形模型、集落模型、海底地形模型、魚類も系統を展示している。

【千石船展示館】

事業名 山村振興等農林漁業特別対策事業
建設年度 平成 8~9 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市宿根本 270 番地 2

電話 86-2604

建築面積 695.52 m²

構造・階数 木造平屋建

<総事業費> 135,366 千円

備考 安政 5 年 (1858) に宿根本で建造された「幸栄丸」を当時の板図 (設計図) をもとに、実物大で復元した「白山丸」が展示されている。

<施設概要>

<施設概要>

所在地 佐渡市小木町 1941 番地 1

電話 52-2447 (佐渡博物館)

敷地面積 1,837 m²

建築面積 303.65 m²

延床面積 206 m²

構造・階数 鉄筋コンクリート造平屋建

駐車場 10 台

<総事業費> 52,000 千円

入館料 無料

休館日 毎週月曜日、12/1~2/29

備考 江戸時代から明治時代にかけて、佐渡の経済発展を支えた海上交通は、北海道や西日本への遠隔地の往来のほか、佐渡の各地の港から対岸の越後へも往来を繰り返していた。かつての小木港の歴史を偲ぶとともに、小木ー寺泊間の人や物の交流の足跡をたどるため、小木ー寺泊間を結んだ佐渡海峡最後の木造和船である「幸丸」を保存・展示している。

【幸丸展示館】

事業名 日本宝くじ協会助成事業

町づくり特別対策事業

建設年度 昭和 59 年度



【佐渡植物園】

建設年度 昭和 23 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市羽茂飯岡 550 番地 6

電話 52-2447 (佐渡博物館)

敷地面積 17,274 m² (総面積 65,040 m²)
建築面積 管理棟 35 m²
作業棟 19.87 m²
温 室 58.32 m²
延床面積 55 m²

構造・階数 鉄筋コンクリート造平屋建

<総事業費>不明

入館料 無料

休館日 年中無休

備 考 佐渡島の植物分布の特異性、多様性の縮図として、佐渡島内に自生している植物を収集、植栽、展示して研究の資料として提供している。

青少年の生涯学習の場としての植物園を目指し、文化的、学術的資料を提供し、植物に親しむことの出来る場として広く公開している。

【新穂歴史民俗資料館】

建設年度 昭和 62 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市新穂瓜生屋 492 番地

電 話 22-3117

敷地面積 2,348 m²

建築面積 922 m²

構造・階数 鉄筋コンクリート造 2 階建

駐車場 41 台 (新穂サービスセンターと

共用)

<総事業費>250,094 千円

入館料 大人 200 円／子ども 100 円

休館日 毎週月曜日、12/1～2/29

備 考 当初は、大野川ダム建設事務所であった建物を利用して、昭和 55 年に開館。トキをはじめとして、旧新穂村に関する資料を中心に考古遺物・農具などが収集されていた。これらの資料をさらに有効利用するため、昭和 62 年に現在の資料館が建設された。1 階では芸術・伝統芸能、2 階では考古と民俗資料の展示を行っている。また、1 階では裂き織りや勾玉作りの体験を随时受け付けている。

平成 21 年度まで佐渡市が運営を続けてきたが、平成 22～25 年度は新穂さきおりサークルに、平成 26 年度は佐渡シルバーハウスセンターに受付業務を委託した。平成 27 年度からは地元有志の団体「新穂の歴史と民俗を考える会（通称：新穂資料館友の会）」に受付・企画展開催を含めた管理運営業務を委託している。

【金井歴史民俗資料収蔵庫】

事業名 国宝重要文化財等保存施設整備

費補助金(国)

文化保存事業費補助金（県）

建設年度 昭和 50 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市泉甲 375 番地 1

電 話 52-2447 (佐渡博物館)

敷地面積 約 2,000 m²

建築面積 収蔵庫 144 m²

展示館 136 m²

構造・階数 鉄筋コンクリート造平屋建

駐車場 7 台

<総事業費> 15,010 千円

備 考 広く佐渡国中平野における農耕文化資料の保存を目的として、昭和 50 年に竣工。その後、郷倉が旧両津市大字上横山（現佐渡市上横山）から移築されている。

収蔵資料は民俗資料約 2,000 点、考古資料約 4,000 点。

平成 23 年 3 月に佐渡市歴史民俗資料館条例から記載を削除すると同時に機関を廃止した。

平成 23 年度から資料館としての開館は行っていない。

建築面積 72.24 m²

構造・階数 木造平屋建

<総事業費>

明治紀念堂 不明

開導館 4,100 千円（昭和 50 年復元）

備 考 明治 27 年から 28 年にかけて行われた日清戦争で、佐渡出身の兵士 40 余名が戦死した。その英靈を慰めるため明治 29 年に、金井地区得勝寺の住職である本荘了寛が一念発起し、島内外から義捐金を集め、敷地を購入し堂宇を建立し「明治紀念堂」と名付けた。

その後、付属施設として博物資料を展示するための「開導館」を建てた。相川の鉱山学校から譲り受けた資料や、日清・日露戦争等の資料、島内外の資料を陳列した。明治 35 年に、明治紀念堂と開導館の落成式が開催された。

平成 23 年 3 月に条例廃止すると同時に機関を廃止。現在、資料館としての開館は行っていない。

【明治紀念堂（開導館）】

建設年度 明治 35 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市千種丙 154 番地

電 話 52-2447 (佐渡博物館)

敷地面積 1,055.2 m²

【赤泊郷土資料館】

建設年度 平成元年度



<施設概要>

所在地 佐渡市赤泊 2458 番地

(赤泊総合文化会館内)

電 話 87-3141

敷地面積 33,000 m²

建築面積 1,184 m²

延床面積 3,260 m² (資料館 約 650 m²)

構造・階数 鉄筋コンクリート造 4 階建
(資料館は 1 階及び 2 階の一部)

駐車場 30 台 (赤泊サービスセンターと
共用)

<総事業費> 727,885 千円

(資料館のみでは不明)

入館料 大人 200 円 / 小中学生 100 円

休館日 12/29~1/3

備 考 平成元年に開館。現在は赤泊行政
サービスセンター内にある。赤泊を中心と
した島の祭りの展示のほか、地域の歴史や
文化、暮らしについての展示を行っている。
赤泊出身の作家・長谷川海太郎に関連した
展示も行っている。

【鳥越文庫】

建設年度 平成 9 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市猿八 329 番地

電 話 66-2011

敷地面積 985.4 m²

建築面積 240.7 m²

構造・階数 木造平屋建

<総事業費> 50,512 千円

入館料 無料

休館日 毎週水曜日、毎月第 3 金曜日、
12/28~1/3

備 考 早稲田大学演劇博物館長、鳥越文
蔵教授から古典芸能関係の蔵書 2 万冊の寄
附を受け、県の「ふるさとの木ふれあい事業」
として、地元産の木材を使用し「鳥越文庫」
が完成。

平成 29 年度より社会教育課佐渡学センタ
一所管となる。

【日本アマチュア秀作美術館】

建設年度 昭和 59 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市小木町 1946 番地 6

(小木図書館内)

電 話 86-3456

敷地面積 977.32 m²

建築面積 408.68 m²

床面積 215 m² (アマ美・収蔵展示スペ
ース)

構造・階数 鉄筋コンクリート一部 2 階
建

<総事業費> 72,0000 千円

入館料 無料

休館日 毎週月曜日、12/29~1/3

備 考 図書館に資料館を併設した「佐渡考古資料館」として新設。

現在は1階の一部と2階を「小木図書館」として使用、考古資料館の常設展示室を平成22年5月より日本アマチュア秀作美術館の収蔵展示スペースとして使用し、平成30年度より社会教育課佐渡学センター所管となる。

【旧北中学校】



＜施設概要＞

所在地 佐渡市平松60番地

電 話 52-2447（佐渡博物館）

敷地面積 12,318 m²

建築面積 2,055.85 m²

構造・階層

校舎 鉄筋コンクリート造2階建

体育館 鉄骨コンクリート造2階建

ポンプ小屋 コンクリートブロック造

1階建

＜総事業費＞ 不明

備 考 平成3年に両津市立北中学校として建設され平成20年に閉校。その後、所管替えにより佐渡学センターの収蔵庫として活用している。

令和元年度 入館者の状況

	佐渡博物館	両津郷土博物館	相川郷土博物館	相川技能伝承展示館	史跡佐渡奉行所跡	佐渡国小木民俗博物館	海運資料館	新穂歴史民俗資料館	金井歴史民俗資料収蔵庫	赤泊郷土資料館	(佐渡植物園)	総計
4月	467	1	326	105	1,651	1,431		357		14		4,352
5月	864	33	447	445	2,693	2,389		361		222		7,454
6月	731	47	1,864	2,409	3,420	2,402		311		14		11,198
7月	696	79	832	821	2,142	1,366		284		11		6,231
8月	1,453	0	278	375	2,932	2,594		458		60		8,150
9月	886	0	523	486	1,820	1,701		340		29		5,785
10月	1,009	0	295	47	1,469	1,197		370		63		4,450
11月	322	31	70	46	1,011	692		286		19		2,477
12月	163	0	6	8	158	133		12		11		491
1月	166	0	4	4	87	101		19		1		382
2月	279	18	10	18	190	230		42		4		791
3月	74	0	39	0	174	189		107		3		586
入館者 年度計	7,110	209	4,694	4,764	17,747	14,425	0	2,947	0	451	0	52,347

※総計には、佐渡植物園入場者を含まず。

平成 16年度	(20,225)	2,772	4,497	7,844	26,317	20,523	1,477	2,801	263	594		67,088
17年度	(20,031)	3,021	4,354	7,535	25,690	19,902	1,309	2,308	315	812		65,246
18年度	(16,248)	3,086	3,599	6,800	29,195	18,247	1,363	2,607	153	493		65,543
19年度	(14,417)	2,681	2,755	6,239	22,880	17,334	1,413	2,944	176	414		56,836
20年度	(13,470)	3,162	4,925	6,279	20,648	15,038	1,460	3,445	123	282		55,362
21年度	(12,621)	1,838	5,883	5,609	22,105	19,136	1,237	2,859	0	313	(4,360)	58,980
22年度	(10,566)	2,482	6,134	5,890	20,224	18,338	1,241	2,314	74	189	(3,650)	56,886
23年度	(10,072)	2,406	6,893	6,793	19,077	16,957	1,513	2,942	0	168	(2,830)	56,749
24年度	(10,660)	3,634	6,402	6,944	18,407	17,219	1,472	2,946	0	254	(2,860)	57,278
25年度	(8,492)	2,212	6,055	6,207	18,568	16,624	1,157	2,693	0	308	(3,230)	53,824
26年度	10,906	239	5,547	5,511	20,445	19,198	1,224	2,315	0	396	(2,840)	65,781
27年度	9,656	261	4,893	5,689	19,878	21,777	1,227	3,183	0	266	(3,067)	66,830
28年度	10,786	235	5,208	5,728	21,191	18,793	1,137	4,308	1	357	(3,137)	67,744
29年度	8,257	268	4,014	4,493	20,377	16,795	1,134	3,009	27	297	(3,069)	58,671
30年度	6,950	341	4,194	4,809	19,060	14,489		3,454	0	517	(3,101)	53,814
R1年度	7,110	209	4,694	4,764	17,747	14,425		2,947	0	451	0	52,347

※平成21年度以降は、入館者数に無料入館者を含む（佐渡博物館は26年度より含む）

団体・視察受入れ状況

【佐渡博物館】 (◆) は島内の保育園・小中学校等

月日	団体・視察者名	人数
4月 24日	◆高千中学校	12
5月 14日	佐渡保育専門学校	13
6月 14日	◆河崎小学校	49
7月 21日	伝統文化と環境福祉の専門学校	15
28日	伝統文化と環境福祉の専門学校	15
8月 4日	伝統文化と環境福祉の専門学校	16
18日	文化庁視察	4
25日	伝統文化と環境福祉の専門学校	15
9月 15日	伝統文化と環境福祉の専門学校	8
15日	伝統文化と環境福祉の専門学校	13
25日	大正大学視察	17
2月 16日	世界遺産推進課視察	3
3月 6日	佐渡特別支援学校	8
	合計	188

【両津郷土博物館】

月日	団体・視察者名	人数
6月 23日	ジオパーク推進室	21
7月 12日	◆河崎小学校	16
7月 16日	◆加茂小学校	34
7月 16日	新潟県歴史博物館	5
7月 17日	◆両津小学校	22
11月 19日	◆畠野小学校	28
2月 5日	◆両津吉井小学校	9
	合計	135

【赤泊郷土資料館】

月日	団体・視察者名	人数
5月 17日	◆赤泊保育園	13
5月 25日	◆赤泊保育園	14
8月 6日	ジオパーク推進室	17
9月 12日	◆赤泊小学校	19
10月 10日	◆赤泊保育園	21
16日	◆赤泊小学校	21
11月 25日	一般団体	15
	合計	120

【相川郷土博物館】

月日	団体・視察者名	人数
5月 23日	◆赤泊中学校、大崎学園	53
24日	村上小学校	47
29日	矢代田小学校	42
30日	月潟小学校／下山小学校	69
31日	岡方第二小学校／出雲崎小学校／中浦小学校	95
6月 4日	新津第二小学校／金屋小学校／坂井輪小学校／	85
5日	小須戸小学校／砂山・平林小学校／荻川小学校／黒川小学校	172
6日	胎内小学校／真砂小学校	132
8日	笛岡小学校／安田小学校	123
10日	紫竹山小学校	51
11日	水原小学校／東山の下小学校	60
12日	二葉小学校／瀬波小学校	99
13日	赤塚小学校／青山小学校	103
18日	富曾龜小学校／曾野木小学校	82
19日	五泉小学校／鏡淵小学校／山潟小学校	160
20日	蓮野小学校／新津第一小学校／龜田小学校	127
21日	小林小学校／保内小学校	92
25日	大蒲原小学校／新通小学校／巻北小学校／	121
26日	東豊小学校／猿橋小学校／	67
27日	浜浦木小学校／竹尾小学校／山辺里小学校／中野山小学校	173
28日	東曾野木小学校／北辰小学校	83
7月 1日	◆加茂小学校	36
2日	桃山小学校	24
4日	日和山小学校／大形小学校	135
5日	五泉南小学校／大崎小学校	78
10日	川口小学校／内野小学校	79
11日	栖吉小学校／愛宕小学校	87
12日	白山小学校／大通小学校	131
17日	吉田小学校	62
19日	黒条小学校／広神西小学校	68
8月 30日	川東小学校	37
9月 4日	学校（不明）	86
5日	津川小学校／田尻小学校	124

6日	村松小学校／山の下小学校	99
11日	赤石小学校	17
12日	下条小学校	28
13日	大渕小学校	24
20日	東星学園	9
10月11日	◆佐渡高校相川分校	8
22日	即位礼正殿の儀	135
	合計	3,303

17日	富曾龜小学校	108
19日	横越小学校	112
20日	東中野山小学校／新飯田小学校／安塚小学校／新津第一小学校	180
21日	早通南小学校／上関小学校	144
22日	観光協会下見／庄瀬小学校／上関小学校／保内小学校／五泉小学校／新通小学校	131
25日	新通小学校	67
26日	前川小学校	57
27日	浦佐小学校／上所小学校／山辺里小学校／比角小学校	175
28日	明治小学校／一ノ木小学校／中野山小学校	198
7月2日	桃山小学校／三郷小学校	41
4日	入広瀬小学校／堀之内小学校／大崎小学校	95
5日	大島小学校／笛山小学校	25
10日	長野日本大学小学校／内野小学校	80
11日	十日町小学校／赤石小学校	59
13日	下條小学校	29
19日	黒条小学校／庄瀬小学校	134
20日	東星学園中学校	8
9月4日	世界遺産推進課視察	9
5日	◆河原田小学校	31
10月9日	◆赤泊小学校	12
10日	大正大学視察	10
17日	ジオパーク視察	8
22日	即位礼正殿の儀	260
25日	お茶会関係	49
26日	鈍翁茶会	64
27日	鈍翁茶会	54
11月5日	ホテル吾妻視察	6
8日	伝統的建造物協議会	25
19日	世界遺産推進課視察	8
22日	佐渡汽船視察	2
25日	下見	3
12月19日	国交省視察	3
2月21日	新潟交通視察	3
	合計	3,463

【史跡佐渡奉行所跡】

月日	団体・視察者名	人数
4月3日	社会教育課視察	2
4日	世界遺産推進課視察	3
13日	佐渡コスプレーヤー／台湾メディア視察	49
14日	佐渡コスプレーヤー	26
19日	世界遺産推進課視察	8
20日	きらりうむオープン企画	112
21日	きらりうむオープン企画	80
22日	佐渡汽船視察	2
25日	◆南佐渡中学校	23
5月14日	世界遺産推進課視察	12
	◆金井小学校／議会事務局視察	70
23日	◆赤泊中学校／観光振興課視察／大崎学園	56
30日	新関小学校／嵐南小学校／しただの学園／旭小学校	86
31日	岡方第一小学校／和泉小学校	57
6月1日	世界遺産推進課視察	6
4日	坂井輪小学校	55
5日	山田小学校／砂山・平林小学校	112
6日	木山小学校／おおまき小学校／金屋小学校／片貝小学校／牡丹山小学校	229
7日	広神小学校／木崎小学校／松代小学校	118
11日	東山の下小学校／水原小学校	58
12日	伊米ヶ崎小学校／松浜小学校	40
13日	宮内小学校／万代長峰小学校／小出小学校	178
14日	上山小学校／川西地区合同小学校／神山小学校	107

【相川技能伝承展示館】

月日	団体・視察者名	人数
4月25日	◆南佐渡中学校	24
5月13日	須原小学校	13
23日	大崎学園	36
24日	村上小学校	41
29日	矢代田小学校	38
30日	月潟小学校／下山小学校／嵐南小学校	107
31日	岡方第二小学校／出雲崎小学校／中浦小学校	84
6月4日	新津第二小学校／金屋小学校／坂井輪小学校／	135
5日	早通小学校／小須戸小学校／砂山小学校／荻川小学校／黒川小学校	192
6日	栄北小学校／神納小学校／栗生津小学校／胎内小学校／小中川小学校／真砂小学校	238
7日	水沢小学校／阿賀小学校	98
8日	笛岡小学校／安田小学校	108
10日	紫竹山小学校	47
11日	東山の下小学校／水原小学校	61
12日	二葉小学校／松浜小学校／瀬波小学校	117
13日	赤塚小学校／和納小学校／加治川小学校／青山小学校／関屋小学校／万代長峰小学校	223
14日	丸山小学校／小合小学校／山倉小学校／長岡聾学校／神山小学校／五十沢小学校	142
18日	富曾龜小学校／曾野木小学校	76
19日	鏡淵小学校／山潟小学校／五泉小学校／	150
20日	蓮野小学校／新津第一小学校／龜田小学校	120
21日	保内小学校／中之島小学校／小林小学校	110
25日	大蒲原小学校／新通小学校／巻北小学校／保内小学校／新通小学校／曾野木小学校	111
26日	東豊小学校／猿橋小学校	64
27日	浜浦小学校／竹尾小学校／山辺里小学校／東小学校／中野山小学校／比角小学校	241

28日	東曾野木小学校／北辰小学校／五泉東小学校	100
30日	◆相川小学校	28
7月1日	◆加茂小学校	34
2日	桃山小学校	22
4日	日和山小学校／大形小学校	124
5日	五泉南小学校／大崎小学校	73
10日	川口小学校／内野小学校	71
11日	宇賀地小学校／十日町小学校／愛宕小学校／栖吉小学校／佐渡特別支援学校	116
12日	白山小学校／大通小学校	242
14日	◆両津吉井小学校	11
17日	吉田小学校	58
19日	黒条小学校／広神西小学校	64
8月30日	川東小学校	33
9月4日	新潟小学校	148
5日	津川小学校／田尻小学校	120
10日	村松小学校／山の下小学校	95
11日	赤石小学校／西川小学校	22
12日	下条小学校	26
13日	大淵小学校	22
20日	東星学園中学校	11
10月11日	◆佐渡高校相川分校	11
11月21日	一般団体	27
30日	一般団体	13
2月10日	◆七浦小学校	4
		合計 4,051

【佐渡国小木民俗博物館】

月日	団体・視察者名	人数
4月5日	旅行会社（視察）	5
8日	市役所企画課（視察）	1
12日	市役所観光振興課（視察）	13
18日	佐渡観光交流機構（視察）	13
23日	一般団体	26
24日	◆相川中学校	31
25日	おおじま学園	40
26日	クルーズ船	28
28日	一般団体	104
5月1日	クルーズ船	53

12日	クルーズ船	68
17日	一般団体	32
22日	附属新潟小学校	82
23日	大崎学園	48
24日	クルーズ船	121
6月2日	一般団体	19
3日	一般団体	24
4日	坂井輪小学校	33
5日	一般団体	16
6日	月岡小学校	27
7日	一般団体／さんぽく小学校	46
8日	一般団体	25
9日	一般団体	181
10日	一般団体	27
11日	東山の下小学校／水原小学校	71
13日	丸山小学校／湯之谷小学校	75
14日	◆八幡小学校	15
19日	曾野木小学校／結小学校	175
20日	横越小学校／早通南小学校／新津第一小学校	117
25日	一般団体／新通小学校	76
26日	一般団体／浦佐小学校／市役所観光振興課（視察）	101
27日	一般団体／上所小学校	60
28日	一般団体	27
7月6日	◆小木小学校	50
10日	内野小学校	33
11日	一般団体	41
12日	市役所世界遺産推進課（視察）	4
8月16日	県文化振興課（視察）	4
24日	一般団体	20
25日	一般団体	24
27日	市役所観光振興課（視察）	5
28日	一般団体	20
9月5日	新潟小学校	111
8日	一般団体	17
10日	赤石小学校	19
13日	一般団体／◆真野小学校	72
18日	一般団体／市役所観光振興課（視察）	25
19日	観光交流機構（視察）	5
24日	一般団体／市役所観光振興課（視察）	23
26日	◆佐渡中等教育学校	33

30日	一般団体	25
10月2日	一般団体	38
7日	観光交流機構（視察）	8
16日	市役所ジオパーク推進室（視察）	7
17日	一般団体	22
19日	一般団体	19
20日	市役所観光振興課（視察）	1
21日	観光振興課（視察）／一般団体	35
25日	一般団体	18
26日	一般団体	18
11月2日	一般団体	23
3日	一般団体	22
5日	市役所観光振興課（視察）／◆羽茂高校	31
7日	一般団体／市役所世界遺産推進課（視察）	73
22日	佐渡汽船（視察）	2
24日	一般団体	15
12月5日	一般団体	27
10日	◆羽茂小学校	22
1月30日	市役所観光振興課（視察）	3
31日	◆小木小学校	22
2月4日	◆真野小学校	38
11日	一般団体	25
20日	市役所文化財室と世界遺産推進課（視察）	9
合計 2,789		

【新穂歴史民俗資料館】

月日	団体・視察者名	人数
4月22日	◆新穂小学校	27
7月3日	◆新穂小学校	17
10日	◆新穂小学校	10
8月2日	◆金井小学校	10
9月13日	◆真野小学校	64
11月24日	新穂地域づくり協議会	15
1月16日	◆新穂小学校	17
2月3日	◆行谷小学校	20
合計 180		

【畠野鳥越文庫】 記録無し

【日本アマチュア秀作美術館】 記録無し

Ⅲ. 佐渡学センター事業報告

1. 展示事業

【佐渡博物館】

<展示構成>

常設展示は、2階で自然・考古・歴史・民俗展示室で行っており、佐渡全体の自然・歴史・文化等をまとめて紹介している。

同じく2階の美術・工芸展示室は無名異焼・蟻型鋳金などの伝統工芸作品や佐渡出身作家の作品などの展示を行い(特別展等会期中の常設展示は基本的ではない)、また企画展示場として特別展・企画展の会場としている。

1階では佐渡金銀山展示室として、絵図面・採掘精錬道具・出土品・絵葉書等を用いて佐渡金銀山遺跡の紹介等を行っている。

1階ホールには、佐渡に伝わる民謡の紹介DVD上映コーナーや佐渡ジオパーク情報コーナー、クジラの化石等がある。

中庭ではロックガーデン(佐渡産出の岩石約50種)、中庭両脇には、国登録有形文化財となっている佐渡の民家と土蔵(いずれも移築、安全確保のため建物内立入禁止)・古墳時代の竪穴住居と高床式倉庫(いずれも復元、安全確保のため建物内立入禁止)がある。

また、展示されている内容から出題するクイズブックを平成27年度から開始し、主に小学生を対象としている。難易度ごとに初級・中級・上級・博士コースの4種類を作成し、希望する人が挑んでいる。

<企画展示>

「佐渡の美術・工芸」

会期 平成31年4月6日～7月12日

令和元年10月19日～12月22日

令和元年12月24日～令和2年3月15日

内容 主に佐渡出身の重要無形文化財保持者(人間国宝)の作品及び佐渡出身または佐渡ゆかりの作家の作品を展示了。会場には作者の略歴を記した配布資料を置いて、作品展示だけでなく作家の紹介もできるよう配慮した。入館者数 3,695人。

「宮本常一写真で読む佐渡③」

会期 平成31年3月25日～令和元年7月15日

内容 日本を代表する民俗学者である宮本常一が撮影した、昭和30～40年代の佐渡の日常生活の風景にみる「モノ」に注目した写真をパネル展示した特別写真展の第三弾。

会期中には調査を行った立教大学・門田岳久准教授、東海大学・杉本淨准教授による解説も行われた。

入館者数 2,317人。

解説会：5月4日 14時から約1時間。

参加者 約10名

特別展「竹芸一本間一秋・秀昭二人展」

会期 令和元年7月20日～10月14日

内容 旧畠野町出身の竹芸作家、本間一秋氏・秀昭氏両氏の作品展。開催初日には内覧会を行い、また、本間秀昭氏による解説会も行われ、多くの方が参加。入館者数 3,010人。

企画展「佐渡博物館 新規収蔵品展」
会期 令和2年1月4日～3月27日
内容 2017年から2019年にかけて佐渡博物館に寄贈された資料を展示する収蔵品展。入館者数 510人。
※なお、新型コロナウィルスの関係で3月4日～15日までの間臨時休館であったため、開催期間を延長した。

ゆかりの人物の資料の展示。主な展示品は、益田孝「屏風」ほか、村田文三「立浪会紋入浴衣」ほか、有田八郎「ボロのちゃんちゃんこ」ほか、等。なお、10月26日、27日に史跡佐渡奉行所跡で行われた「佐渡鈍翁茶会2019」においてぶらり探訪の一つとして来場者（約20名）があった。

【両津郷土博物館】

<展示構成>

常設展示は、第1～第3展示室で構成されており、それぞれ「海」、「くらしと木」、「祭」をテーマとしている。民俗資料を中心に歴史資料がそれを補完する形での展示を行っている。

【相川郷土博物館】

<展示構成>

鉱山に関する資料、相川地区出土の考古資料、遊女関連資料、昭和10年代に外務大臣を務めた有田八郎氏の資料を展示している。

体験コーナーとして水上輪を設置し、実際に回して鉱山労働の厳しさと、当時の技術を体感できる。平成28年度からは、佐渡博物館に引き続き、相川郷土博物館版クイズブックを開始し、小学生を主な対象とし、希望者に配付している。

<企画展示>

「相川郷土博物館収蔵品展～相川ゆかりの人物～」
会期 令和元年8月20日～
内容 相川郷土博物館が収蔵している相川

【相川技能伝承展示館】

<展示構成>

展示室では島内の窯元・裂き織り愛好者の作品を展示している。また、体験学習のメニューにはないが、文弥人形も展示している。裂き織り実習室は、自由に入り出しができ、見学できるようになっている。

【史跡佐渡奉行所跡】

<展示構成>

基本的に当時の技術で復元した建物を来館者に体感してもらう形であり、御役所内を説明員が案内している。ガイダンス施設である勝場では、発掘調査で出土した遺物や絵巻物（レプリカ）などの資料を展示し、当時の選鉱作業の設備を復元し、実際に石磨を回す体験を行っている。施設の活用を図るため、地域イベントである「佐渡國相川ひなまつり・お茶会」「宵乃舞」等の会場として開放している。

【佐渡国小木民俗博物館】

<展示構成>

本館には、「衣」「信仰」「陶器」をテーマにした展示室のほか、昔の生活道具を展示している大型展示室がある。新館には南佐渡の漁撈具や農具、新館ホールでは長者ヶ平遺跡出土品などの考古資料を展示。そして、千石船展示室には、全長23.75mの白山丸を展示しており、船内の見学もできる。

平成29年度からは、佐渡博物館、相川郷土博物館に続き、小木民俗博物館版クイズブックを開始し、小学生を主な対象とし、希望者に配付している。

<特別写真展>

「宮本常一写真で読む佐渡③」

会期 令和元年8月9日～10月2日

内容 佐渡博物館で行ったものを主に南部の写真パネルを中心に展示。

【幸丸展示館】

<展示構成>

18m×24mの吹き抜けの展示館内には、船主であった長谷川正作氏の計画により、航海中にいかなる船も優先した「右舷開き」と呼ばれる帆形を再現して展示を行っている。また、展示館前庭には、案内解説看板や天然記念物および名勝「佐渡小木海岸」の岩石（枕状溶岩、柱状節理）、かつて湾内に使用されていた尾道産の御影石などを配し、無料入館できる身近な文化施設として利用されている。

※現在は、傷みのため帆を下ろしている。

【佐渡植物園】

<展示構成>

北緯38度線上に位置する佐渡島は、潮流の影響によって寒暖の差が少なく自生種が極めて多い。日本列島の縮図的な植物分布となっている。13のゾーンに区分けした園内には、自生種の代表的な植物を植栽展示しており自然散策道や遊歩道を歩くと四季を通じて趣が感じられる。

昭和47年佐渡植物園20周年記念として、明治神宮から分けて頂いた花菖蒲は6月下旬～7月上旬が見頃である。

<企画展示>

「春の山野草展」

会期 令和元年5月11日～5月12日

主催 佐渡植物園・佐渡植物園友の会

会場 羽茂地区公民館ホール

内容 出展者15人、展示213鉢、写真15点、来場者152人

「ウチヨウランと初夏の山野草展」

会期 令和元年7月6日～7月7日

主催 佐渡植物園・佐渡植物園友の会

会場 羽茂地区公民館ホール

内容 出展者11人、展示226鉢、写真13点、来場者95人

「大文字草と秋の山野草展」

会期 令和元年10月26日～10月27日

主催 佐渡植物園・佐渡植物園友の会

会場 羽茂地区公民館ホール

内容 出展者8人、展示139鉢、写真19点、来場者107人

※「雪割草展」は新型コロナウィルスの関係で中止となった。

【新穂歴史民俗資料館】

<展示構成>

1階では、新穂出身の日本画の大家土田麦僊の作品や鬼太鼓、国指定文化財の文弥人形、県指定文化財の説経人形・のろま人形に関する資料を展示。2階においては、国指定重要文化財の新穂玉作遺跡や蔵王遺跡の資料、また各種農具や生活用具といった民俗資料を展示。

収蔵資料は約1,400点。

<企画展示>

高校三校写真部 新穂写彩の会「合同写真展」

会期 平成31年3月1日～4月14日

主催 新穂の歴史と民俗を考える会

内容 入館者413名

「新穂銀山と清水寺二十八部衆像展」

会期 平成31年4月27日～令和元年5月26日

主催 新穂の歴史と民俗を考える会

内容 入館者370名

新潟県有形文化財指定記念「佐渡国分寺遺跡群」展

会期 令和元年6月1日～7月15日

主催 佐渡市・佐渡市教育委員会

内容 入館者477名

「木村鳥海展」

会期 令和元年7月20日～8月12日（月）

主催 新穂の歴史と民俗を考える会

内容 入館者281名

「新穂芸能公演会」

会期 令和元年8月14日

主催 新穂の歴史と民俗を考える会

参加団体：新穂春駒クラブ

新青座 演目「生き地蔵」

廣栄座 演目「五輪仏」

青木田起こし踊り保存会

内容 入館者39名

「柏原レイ子×柏原昇店」作品展

会期 令和元年8月17日～9月29日

主催 新穂の歴史と民俗を考える会

内容 入館者548名

「裂き織り」作品展

会期 令和元年10月6日～10月27日

主催 新穂さっこりサークル

共催 新穂の歴史と民俗を考える会

内容 入館者320名

三田憲一「紅葉・黄葉スキナー写真」展

会期 令和元年11月2日～11月30日（土）

主催 新穂の歴史と民俗を考える会

内容 入館者283名

2. 収集保管事業

受入月	資料名	作者	点数	種別・形態	備考
H31. 4	益田鈍翁（孝）遺品資料	益田鈍翁（孝）	35	掛軸、屏風等	
	貼り交ぜ屏風		3		ほか小作品一式
	佐渡小景（絵はがき）		5		収集資料
	土田麦僊・土田杏村関係手紙		一括		収集資料 手紙2点、封筒のみ5点、冊子3点
R1. 5	「芝之庵 釣灯籠」	三代目本間琢斎	1	鋳金	寄託
	菊池家民具		7		犁3点、ほか4点
	木桶（30石）		1		寄託
7	藁打機		1		
	岡崎家民具		4		脱穀機1点、臼1点、杵2点
	佐渡出土考古資料（古代～中世）		一括		
8	明治期の写真、『佐渡新聞』		一式		収集資料
	高橋信一版画作品	高橋信一	11	版画	額装済み
	木村鳥海作品	木村鳥海	13	掛軸	
10	「佐渡海府之景」等	不明	3	墨絵	

受入月	資料名	作者	点数	種別・形態	備考
	「夏（青）」	柏原礼子	1	版画	額装済み
11	墨絵屏風六曲一双 こたつ（やぐら）	狩野探幽		屏風 1	寄託。 箱有り
	中興城址出土遺物		16		箱入り 鏹 7 点、管 玉 4 点、勾 玉 1 点、 石錐 1 点、玉 3 点
12	「天平美人」	佐々木象堂	1		額入り
R 2. 1	本間雅晴元日本陸軍中将の書、 ハガキ	本間雅晴	3		収集資 料
3	佐渡奉行赴任行列之圖	岡常次	1	墨絵	額入り
	佐渡奉行赴任渡海之圖	岡常次	1	墨絵	額入り

3. 調査研究事業

- ・新潟県立文書館歴史資料所在確認調査の協力

新潟県立文書館では、平成4年の開館以来、新潟県各地に所在する歴史資料の保存促進やその収集・活用にも努めている。佐渡市管内の歴史資料所在確認調査の協力を行った。

日 時：令和元年10月2日～4日

内 容：相川・小林家（元材木商）の文書の保存状況確認、目録作成及び概要調査

調査者：文書館職員 3名
文書調査員 3名

対応者：井野端圭介主事

4. 普及教育事業

【キャリア教育】

- ・キャリアセミナー

参加校 佐渡市立佐和田中学校

実施日 令和元年6月25日

内 容 生徒の職業観を広げ、生き方指導の一環として進路指導の充実を図るため、講師として講話を行った。

・職場体験

実施校 真野中学校2年生

実施日 令和元年10月2日～3日（2日間）

生徒数 4人

内 容 博物館の玄関口「ホール」の展示内容を企画し、作成する課題解決型職場体験（取組分野：歴史）

5. 支援・助成事業

【佐渡文化財団運営費補助金】

平成 30 年 7 月 2 日に佐渡の文化の発展及び活き活きとした地域住民の暮らしの実現のために設立された一般財団法人佐渡文化財団が事業を進めていくために必要な経費に対し、補助金を交付した。

補助事業者：一般財団法人佐渡文化財団

交付確定額：30,472 千円

【文化関係等出場激励金】

佐賀県の県下 20 市町村で 7 月 27 日から 8 月 1 日までの 6 日間開催された第 43 回全国高等学校総合文化祭へ出場するにあたり激励金を交付した。

対象者：吉田 文音

交付確定額：10 千円

対象者：新潟県立羽茂高等学校

交付確定額：200 千円

6. 連携事業

令和 2 年 3 月 1 日に「第 9 回佐渡学セミナー」として、ロシア民謡・ロシア演劇についての講演と、西三川・五泉の発掘調査についての報告を予定していたが、新型コロナウィルスの関係で中止となった。

7. イベント

2019 年秋に、国内最大の文化の祭典「天皇陛下御即位記念 第 34 回国民文化祭・にいがた 2019、第 19 回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会」が新潟県で初開催された。

大会期間中は、県内を 7 つのエリアに区分し、観光や産業、食文化といった地域文化の魅力に触れてもらうとともに、伝統芸能やダンス、音楽、障害者アートなど、様々な分野で事業展開がなされた。

佐渡市においては、実行委員会を設立し、佐渡学センターが事務局を担い、関係団体と協力し、次の事業を行った。

「第 4 回佐渡民謡の祝祭～国民文化祭にいがた Special～」

○開催日：令和元年 9 月 22 日

○開催場所：両津文化会館

○出演者：島内 16 民謡団体

羽茂高校郷土芸能部 等

○来客者数：約 600 名

平成 28 年度から開催している『佐渡民謡の祝祭』について、国民文化祭の佐渡会場のメインイベントに位置付け、『第 4 回佐渡民謡の祝祭～国民文化祭にいがた Special～』として開催した。

イベントでは、「佐渡おけさ」「両津甚句」「相川音頭」の佐渡三大民謡を含め、佐渡に残る 19 種類もの民謡が次々と披露された。

披露された民謡の中には、絶滅の危機にあった佐渡民謡「小川甚句」を当イベントに合わせて復活させ、本邦初公開として披露した民謡団体の姿もあった。

また、熊本県天草市から「牛深ハイヤ」を招致し、牛深ハイヤから山田はんや、小木お

けさ、佐渡おけさへと、佐渡おけさのルーツと言われている民謡メドレーを行った。



「佐渡・能楽の祭典」

○開催日：令和元年 10 月 13 日

○開催場所：堀記念金井能楽堂

○出演者：佐渡市立両津吉井小学校（宝生流）

佐渡市立真野中学校（鷺流狂言）

新潟県立佐渡中等教育学校（宝生流）

佐渡能楽連盟佐和田支部（宝生流）

真野能楽会（宝生流）

○来客者数：約 100 名

「佐渡能楽の祭典」は 10 月 13 日（土）と 14 日（祝月）の二日間に渡り行われた。

13 日は佐渡市実行委員会が主催して能楽体験講座と能楽発表会（第一部）を、14 日は新潟県実行委員会が主催し、能楽発表会（第二部）と観世宗家を迎えた特別能の二部構成で開催した。

1 日目は、台風 19 号の影響により予定していた内容を一部変更して開催となった。



翁ゆかりの品々が展示された。

その他、今回は、国民文化祭特別企画として、ガイドとともに佐渡奉行所の近辺を巡る街歩きも合わせて開催した。



「佐渡鉱翁茶会 2019」

○開催日：令和元年 10月 26 日・27 日

○開催場所：佐渡奉行所

○協力団体：【総合監修】

一般社団法人茶道文化振興会

理事長・裏千家教授 北見宗
幸

【茶席担当】

・立礼席

(一社)茶道裏千家淡交会佐
渡支部

・薄茶席

表千家同門会新潟県支部佐
渡地区

○来客者数：【茶会】 220 名

【ぶらり探訪】 12 名

益田孝は相川出身で、近代日本を支えた代表的総合商社 旧三井物産初代社長で、茶人としても高名で鉱翁と号し、「千利休以来の大茶人」と讃えられた。益田孝の功績を讃えるため、益田孝の父、鷹之助が務めた佐渡奉行所で 2017 年から開催している。

茶席では、益田鉱翁筆の掛け物や、佐渡ゆかりの人間国宝、伊藤赤水氏や三浦小平二氏が手掛けた茶器が使用されたほか、佐渡を代表する和菓子として有名な「沢根だんご」や、この日のために製作された「鉱翁饅頭」などが出され、奉行所という独特な風情のなかでの茶席となった。また、別室では鉱

「ようま芸能絵巻」

○開催日：11月 2 日・9 日・16 日・23 日

○開催場所：佐州おーやり館

○出演者：11月 2 日

常盤座（文弥人形芝居） / 立浪会（民謡） / 七浦民謡研究会（民謡） / 小木民話の会（民話） / 新穂春駒クラブ（春駒）
9 日

常盤座（文弥人形芝居） / 杉山民友会（民謡） / 海府みすじ会（民謡） / 佐渡国・草の会（やわらぎ節） / 相川の春駒猿八支部（春駒）

16 日

常盤座（文弥人形芝居） / 立浪会（民謡） / 七浦民謡研究会（民謡） / 小木民話の会（民話） / 新穂春駒クラブ（春駒）

23 日

常盤座（文弥人形芝居） / 杉山民友会（民謡） / 海府みすじ会（民謡） / 小木民話の会（民話） / 相川の春駒猿八支

【食事提供】

料理 相川飲食店組合

飲み物 热爛小僧の会

・佐渡学センター 年報第 10 号

○来客者数：64名

郷土料理を楽しみながら、間近で佐渡の
伝統芸能を鑑賞できる公演を開催した。



IV. 佐渡学センター関係団体

1. 佐渡市博物館協議会

佐渡市博物館条例第10条第1項に基づき、博物館の運営及び事業、連携活動の推進又は調整その他について協議を行う。

委員 石川 喜美子
委員 萩野 正作
委員 大屋 柳平
委員 相田 満久
委員 伊藤 正一

【第1回】

日時：令和元年11月6日（水）13:30～

報告事項：

- (1) 令和元年度 佐渡学センター事業の進捗状況について
- (2) 令和2年度 佐渡学センター事業計画（案）について

議事：

- (1) 令和元年度 佐渡市博物館協議会 博物館ビジョン専門部会（仮称）の設置について

【第2回】

日時：令和2年2月6日（木）13:30～

議題：

- (1)（仮称）佐渡市博物館ビジョン（整備方針）検討部会の設置について
- (2)「佐渡市博物館ビジョン（仮称）」の策定について
- (3) その他

【令和元年度佐渡市博物館協議会 委員名簿】

会長　臼杵　國男
副会長　池田　雄彦
委員　伊藤　窓一
委員　小見　秀男
委員　加藤　恭子

2. その他会議等

【佐渡市博物館協議会専門部会】

佐渡市博物館ビジョン（仮称）を策定するにあたり、広く意見を収集するために検討会議を開催した。

日時：令和2年2月18日（火）13:30～

議題：

- (1) 佐渡市博物館協議会専門部会の設置について
- (2) 「佐渡市博物館ビジョン（仮称）」の策定について
- (3) その他

佐渡学センタ一年報

第11号（令和元年度版）

編集・発行 佐渡学センター

〒952-1311

新潟県佐渡市八幡 2041 佐渡博物館内

TEL 0259-52-2447

発行年月日 令和2年9月28日
